

独立行政法人労働者健康安全機構 釧路ろうさい病院

地域医療連携総合センター だより

2017
No. 36

INDEX

1. 院長からの新年あいさつ
2. トピックス

発行：2017.1 釧路労災病院地域医療連携総合センター

理念：最新の知識と技術に基づき、良質で信頼される医療を実践します。

■当院は地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、エイズ治療中核拠点病院です。

新年のあいさつ

病院長 野々村 克也



新年明けましておめでとうございます。新たな年を迎え、皆様方には気持ちも新たに、お正月をお過ごしのことと存じます。

本センターは一昨年3月にスタートし、二年が経過しようとしております。釧路労災病院は釧根地区唯一の地域医療支援病院であり、本センターはその役割を推進することを目的としております。昨年の実績では紹介率・逆紹介率などの必要要件を充たすことができております。またこの間、医療相談・がん相談などの対応についてもその実績を伸ばしております。今後も、新たな気持ちでセンターとして、更なる機能の充実・発展を図って行きたいと思っております。

一方、釧根地区の医療施設を対象とした本院登録医制度も根付いてきており、現在まで163名もの先生方にご登録いただいております。そこではリニアック、CT、MRIなどの医療機器や開放病床、図書室などを共同利用していただくと共に、カンファレンスや講演会・研究会への参加など幅広い活動を展開しております。引き続き、登録医療施設を始め全ての医療関連施設の皆様方や患者さんに見える形でシームレスな枠組みでの医療サービスを心掛けて行きたいと思っております。

釧根地区の医療資源の不足、特に医師・看護師をはじめとする人的資源の不足には深刻なものがああります。今後の高齢者の急増に備えて、厚生労働省の指導で「地域医療構想」が行政レベルで動いておりますが、今立ち行かなくなっている実情との乖離があり、先行き厳しいものがああります。望まれているのは、現在の医療資源不足を如何に補完するかであって、そのためにできることは管内の医療施設相互の緊密な連携に他なりません。本センターもその一翼を担って行きたいと思っております。

今年は酉年です。酉は飛翔することはできませんが、朝一番に鳴くことから縁起が良いとされています。私共釧路労災病院は今の地域医療を支えるため、先頭に立って新たな提案・取り組みを発信して行きたいと思っております。釧路労災病院は本センターを窓口として、道東地区の医療に更なる貢献ができるよう努力して行きたいと思っておりますので、一層のご支援・ご愛顧下さいますようお願い申し上げます。



トピックス

化学療法センター開設

かねてよりお知らせしておりました化学療法センターが12月5日より本格稼働いたしました。ベッド数を11床から16床へ拡充することにより、多くの患者さんの受け入れが可能となり、これまで1ベッド2～3回実施していた治療も2回の運用となったことから、患者さんの治療開始

時間も早まり負担の軽減となっております。治療室は十分なスペースの確保と長時間の治療に配慮して備え付けのテレビを設置しております。また、患者さんの癒しとくつろぎを意識した待合スペースは大変好評となっており、今後も先進的な化学療法が提供できるよう、更なる充実を図ってまいります。



第13回 師走講演会

昨年、12月3日（土）17時から当院3階講堂で性感染症・HIV予防啓発を目的として行われました。第一部は釧路労災病院看護学生による活動報告について、第二部は「私の歩んだ道のり・・・あれからの10年。そして、これからの10年にむけて」と題し、兵庫人権ネットワーク会議構成団体BASEKOBED代表繁内幸治氏を招き二部構成で行われ、当日は多くの方が詰めかけ講演に聞き入っていました。

緩和ケア市民公開講座

昨年、12月17日（土）14時から当院3階講堂で緩和ケアの普及啓発を目的とし、広く地域住民の方々の緩和ケアに関する知識・理解を深めるために行われました。第一部は当院副院長小笠原和宏による「緩和ケアとは」と題して緩和ケアの基礎について講演され、第二部は杉元内科医院院長杉元重治先生による「在宅緩和ケアの実際」在宅での緩和ケアの取り組みについての講演が行われ、多くの市民が訪れました。

